

出会う、笑いの深さに夢中に。

高校生漫才コンビ「アンドロイド」

岸翔大さん(右)と岡島晃佑さん。息の合った掛け合い。計算された笑い
〓加古川市平岡町新家、イオン加古川店

野望大きく 頂点目指す



スタンドマイクが置かれただけの簡素なステージ。高砂市・高砂公民館の文化祭で、高校生漫才コンビ「アンドロイド」の岸翔大さん(18)と岡島晃佑さん(17)が漫談を披露。岸さんが、岡島さんのかわいらしい顔を指さしながら言う。

「顔とは一言も言うてません。よ〜く、スベるところが似てまんねん」

「相方ね、フィギュアスケートの羽生結弦さんに似てるでしょ?」

「どこがやねん!」と観客が大きな声を出す。想定外の

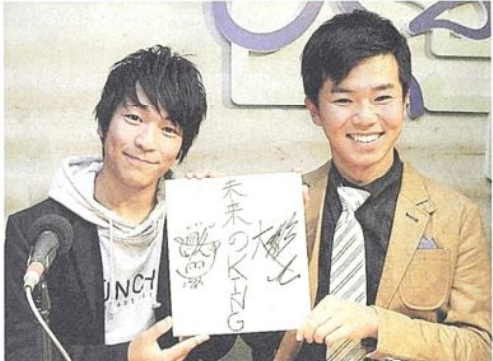
新時代を 駆ける 3

毎日、学校終わりに加古川の河川敷で練習。バイト代をつぎ込み、週末は大阪の小劇場に通ってネタを披露し、舞

台の感覚を養った。そして満を持して挑んだ2年のコンテストで、646組の頂点に輝いた。岡島さんは、優勝が人生の分岐点になったという。

「僕は幼い頃から、警察官になって白バイに乗るのが夢だった。公務員で安定してるから。でも、岸と出会って、人を笑わすことの深さに夢中になった。ハイマンの審査員のオール巨人さんが『言うことがないくらい素晴らしい』と褒めてくれたのも自信になって、新しい世界に挑戦しようと思った。元々、勉強は苦手だったし、3年生になる前に公立校を辞めました。『目で目指します』

「進学や就職せずに、周りと違う生き方をすることに不安もある。でも、大阪進出は、僕らにとって大きなチャンス。売れなくてあえぐ人もいるけど、僕らは心配してない。近い将来、新人賞を取って、M-1グランプリで優勝する。漫才界のつっぺんを本気で目指します」



「頂点に上りたい」〓加古川市加古川町篠原町、コミュニティスペース「びいぶらす」

初めて取材したのは2017年夏。漫才コンテスト優勝の凱旋(がいせん)公演だった。無邪気で幼い顔つきは、この1年半ですっかり大人の表情になった。取材で会うたびに、岸さんの礼儀正しさと、岡島さんのおとぼけぶりに癒やされた。大阪で大きく羽ばたいてほしい。



津田和納

人師匠のお墨付きや!」って親を説得したら渋々認めてくれました」